



# 戴国カレンダー

別表2 『白銀の壺 玄の月』時系列

作成者：ほしなみ

作成日：2021年9月11日



## 別表2 『白銀の墟 玄の月』時系列

作成者：ほしなみ (@hoshinami629)

2021/9/11

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算 日数	月	李斎・去思・鄴都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
泰麒・李斎、墨陽山に到着。項梁・園糸・栗、東架に到着。 去思と行き当たり、瑞雲親の協力を得る。	一章	白銀① P.51 同P.52	1	9/11				
一行、東架を出発、鄴都と合流。暮れに小里に到着。	二章2節	白銀① P.115	2	9/12				
小里発、北容着。	二章2節	白銀① P.128	3	9/13				
北容発。			4	9/14				
	四章1節		5	9/15				
項梁の為の騎獣、狹が用意される。	四章1節	白銀① P.184	6	9/16				
			7	9/17				
			8	9/18				
泰麒、困窮した人々を哀れに思う。	四章3節	白銀① P.213	9	9/19				
一行、東架の勢力圏を離れる。	四章3節	白銀① P.218	10	9/20				
碩杖着。	四章4節	白銀① P.219	11	9/21				P.219「碩杖はこの近辺にある最も大きな街だった。江州から文州へ向かう大街道と、同じく江州から瑞州に向かう大街道との交点にある。『そして碩杖を出れば道は登る一方で、これを登り詰めれば文州です』」
早朝、泰麒と項梁出奔。李斎、愕然としつつ旅を続ける。	四章4節		12	9/22				別行動開始。
			13	9/23				
次の日には鴻基に到着するという地点まで来る。泰麒、項梁に白圭宮へ向かうつもりだと打ち明ける。	五章1節	白銀① P.240	14	9/24				泰麒も項梁も騎獣に乗っていたために、鴻基まで4日で移動できた。
夕刻、鴻基到着。白圭宮に通されるも、拘留される。	五章1節	白銀① P.250	15	9/25	この頃李斎達、琳宇に到着。喜溢と面識を得る。	六章2節	白銀① P.321	
泰麒・項梁、待ちぼうけを食らう。この晩、月が昇っている。	五章3節	白銀① P.264 同P.267	16	9/26	建中、李斎達に空き家を貸す。その日のうちに李斎達は浮丘院から移る。喜溢、驍宗を見たことのある荒民の女性を李斎達に引き合わせる。	六章4節・5節	白銀① P.343 同P.347 同P.348	
朝には霜が降りる。淡和、泰麒が拘留されている房室を訪れる。	五章4節	白銀① P.268 白銀① P.270	17	9/27	喜溢、驍宗を知る二人の男女を李斎達に引き合わせる。女性、志邸の里に隣接した廟で、赭甲の人物（烏衡か）と驍宗が話していたのを見た、李斎に話す。	六章5節	白銀① P.353	
			18	9/28	喜溢、また別の男性を李斎達に引き合わせる。李斎、函養山に行く意志を見せる。	六章5節	白銀① P.356	
			19	9/29	李斎達、函養山に関する情報や噂を集める。			情報収集の日数が漠然としているが、白銀①P.371「行ってみないことには始まらない」とあることから、長い間情報収集のみを行っていたとは考えづらいため、2~3日程度と考えた。
			20	10/1				
			21	10/2	李斎達、志邸へ向かう。途中で白幟の老夫婦を見かける。	八章1節	白銀② P.63	
			22	10/3	李斎達、建中を伴って琳宇を出発。	八章1節	白銀② P.71	
	七章1節	白銀② P.10	23	10/4				黄昏P.41「戴は冬に入ったばかり、なのにもう山野をうっすらと雪が覆い始めていた」という記述と、白銀①P.270「これまで霜を見ませんでしたから、例年よりは遅いでしょう。今年はずっとより、少し暖かいように思いますよ」という記述、また前者が10月のことであるという仮説に基づけば、白銀②冒頭は10月初旬と見るのが妥当か。新月の夜の描写と余り時系列が食い違っているとも思えないため、ここを月の変わり目と見る。
			24	10/5		八章2節	白銀② P.75	「三日をかけて」という言葉から、出発日込みで三日と考えた。

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・豊都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
			25	10/6	一行、夕刻に岨康付近へ到達。白幟の親子を助け、岨康にいた朽棧に捕まる。	八章2節	白銀② P.75	
			26	10/7	李斎達、朽棧の案内で夕刻に函養山へ到着。坑道を見る。	八章5節	白銀② P.135	
			27	10/8	李斎達、函養山の内部を詳しく検める。	八章5節	白銀② P.151	
泰麒、恵棟に民への援助を要請する。	九章1節	白銀② P.155	28	10/9	李斎達、函養山を出発。李斎達にとってはこの冬最初の雪。	八章5節	白銀② P.151	函養山での初雪と、「北方では雪が降り始めました」とがどの程度連動しているかは難しい問題。函養山は標高が高い分、初雪もかなり早かったのではないかと考えられるが、琳宇周辺は雪の多い地域ではない(白銀①P.339参照)。文州の虚海沿岸は最も北に位置する上、雪も多い為、こちらからの降雪報告が最も早かったのではないかと考えられる。
恵棟、民への援助に関する具体的な返答を用意出来ず。泰麒、返答として土遜の辞職を勧告。土遜、慌てて泰麒の許を来訪。 ここで泰麒の角、癒えきる？	九章1節	白銀② P.156	29	10/10				九章1冒頭の記述は時系列が明らかでない。民への援助に関する具体的な返答が得られず、それ以前から要請していた瑞州侯の実権も得られない為に、土遜への辞任勧告になったと読んだため、このような日数処理を行った。
			30	10/11				
			31	10/12				
この頃の夕刻、恵棟は友尚に泰麒の護衛の増員を相談する。 同日、鴻基で初雪。	九章2節	白銀② P.163	32	10/13	李斎達、琳宇に戻る。雪はその間断続的に降り続けた。	十章1節	白銀② P.220	土遜と泰麒とのやり取りの後、瑞州六官との押し問答が何日程度続いたか。事態が一方向に動かず苛立つだけの期間なので、4、5日程度と考えた。
			33	10/14				
この頃、張運は泰麒に阿選登極の指示を仰ぐ。	九章3節	白銀② P.189	34	10/15	喜溢、李斎達に二人の男を紹介する。	十章1節	白銀② P.226	
			35	10/16	李斎達、南斗へ向けて出発。	十章2節	白銀② P.230	
			36	10/17	李斎達、南斗着。聞き込みを行う。	十章2節	白銀② P.230	
この頃、耶利の主は耶利を泰麒の侍官に紛れ込ませることを画策。	九章5節	白銀② P.215	37	10/18	李斎達、銀川を訪れる。夜に静之達と行き会う。	十章2節	白銀② P.230	
			38	10/19	李斎達、南斗に戻る			
			39	10/20	李斎達、琳宇に戻る	十章5節	白銀② P.261	
			40	10/21	喜溢、瑤山の鉱山遺構に驍宗が逃れた可能性を示唆。	十章5節	白銀② P.265	琳宇に何日後に戻ったかの明記がないが、静之と出会った夜が明ければ南斗に戻ったであろうし、そこから琳宇までは往路との同じく1日の旅程の可能性が高い。
			41	10/22	李斎達、函養山へ再度出発。	十章5節		琳宇到着の次の日の朝に李斎達が相談をし、更に次の日に函養山に出発したと見るべきであろう。
			42	10/23				
			43	10/24				
			44	10/25	岨康着。朽棧不在。	十章5節	白銀② P.266	
			45	10/26	李斎達、岨康発。杵臼が案内につく。	十章5節	白銀② P.266	前回は琳宇～岨康は前回徒歩で4日の旅程。2回目は琳宇から馬に乗って来た可能性も否定できないが、それならば岨康～函養山の旅程が2日にならない筈なので、今回も徒歩であろうと判断し、琳宇～岨康も徒歩でやはり4日の旅程と計算した。
			46	10/27	函養山着。朽棧に面会。	十章5節	白銀② P.267	
			47	10/28	李斎達、仲活に案内されて山奥の鉱山町を探索。荒民の死体を見付ける。	十章5節	白銀② P.276	函養山で朽棧に会った後、仲活が登場するが、こちらは馬に乗っている。函養山で朽棧が馬を貸してくれたと見るべきか。
			48	10/29	李斎達、再び山奥を探索。澗溝など廢墟を回るも収穫は得られず。	十章5節	白銀② P.278	
			49	10/30	函養山発。	十章5節	白銀② P.282	
			50	11/1	岨康着。	十章6節	白銀② P.283	白銀②P.288の粉雪と、李斎達が琳宇に到着した際に積もっていた雪、また驍宗に供え物をする父子の家に吹き込む雪は同じ雪だと考えられる。
			51	11/2	岨康発。			

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・豊都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
			52	11/3	この頃、基寮死亡。 驍宗に供え物をしていた父子の内、娘が一人死亡。	十章6節	白銀② P.283 同P.287 同P.286	白銀②P.288の粉雪と、李斎達が琳宇に到着した際に積もっていた雪、また驍宗に供え物をする父子の家に吹き込む雪は同じ雪だと考えられる。深く積もった訳ではないという記述がP.328に見えるため、2、3日の降雪と理解した。また老安の経済的な事情や基寮を匿っていたという状況から、土葬であり、死亡後すぐに埋葬を済ませたと考えた。
			53	11/4				
			54	11/5	琳宇着。琳宇は雪に覆われていた。	十二章1節	白銀② P.328	
			55	11/6	琳宇に路上で凍死する人が発生。	十二章1節	白銀② P.328	
この頃、鴻基で降雪。平仲の様子、奇怪。	十一章1節	白銀② P.290 同P.291	56	11/7				文州で雪を降らせた雲が鴻基に南下したと仮定した場合の日程。
平仲、姿が見えず。項梁の疲労蓄積。	十一章1節	白銀② P.291	57	11/8	凍死者を助けなかった女、押し込み強盗に殺される。	十二章1節	白銀② P.330	
この頃、張運は泰麒に追い詰められ、土遜を罷免することに同意。	十一章2節	白銀② P.300	58	11/9	喜溢、李斎達に赴葆葉の樽を持ってくる。	十二章1節	白銀② P.331	
恵棟、州宰に任じられる。	十一章3節	白銀② P.304	59	11/10	李斎達、琳宇を出発。			
			60	11/11	李斎達、嘉橋に到達。	十二章2節	白銀② P.338	
			61	11/12	李斎達、驍宗が消えた辺りを通り過ぎる。	十二章2節		
この頃、耶利が泰麒に仕え始める。	十一章4節	白銀② P.321	62	11/13	李斎達、鞆田方面へと向かう街道の分岐点に到達。	十二章2節		
			63	11/14				
この頃、項梁と泰麒二人だけで会話。泰麒、阿選は王ではないと断言。泰麒、夜に小寝の阿選を訪問。その後、張運に黄袍館への出入りを禁じる。	十三章1節～5節	白銀③ P.10 同P.20 同P.30 同P.55	64	11/15				恵棟の州宰就任を聞いて以来、ということは、就任が決まってから数日後と考えた。
張運、泰麒の専横を阿選に訴える。	十三章6節	白銀③ P.56	65	11/16				
			66	11/17	李斎達、白琅着。	十二章2節	白銀② P.338 同P.343	
			67	11/18	李斎達、白琅発。			
			68	11/19				
			69	11/20				
			70	11/21				
			71	11/22				
			72	11/23				
			73	11/24				
			74	11/25	李斎達、琳宇着。帰着当日に飛燕の世話、習行が李斎達を訪問、老安の話題を提示。すぐに剣を調達。	十二章3節	白銀② P.356 同P.364	
			75	11/26				
			76	11/27	静之・習行、琳宇を出発。	十二章4節		
			77	11/28	静之・習行、夕刻到老安着。静之、基寮の遺品を驍宗の物であると告げられる。報告のために夜だが馬を飛ばして琳宇へ向かう。	十二章6節	白銀② P.387 同P.406	
			78	11/29				
			79	11/30	喜溢、李斎を訪問。新王登極の噂を確かめるために共に石林観へ。その間に静之が帰着。	十二章4節・5節	白銀② P.364 同P.386	
			80	12/1	李斎、琳宇発。	十二章7節		さすがの李斎も、話を聞いた当日に出発したとは考えづらい。
			81	12/2	李斎、老安着。驍宗だと言われた人物に墓参。一行、悄然。この夜、回生も老安発。	十二章7節	白銀② P.411 同P.420	
			82	12/3				

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・鄴都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
			83	12/4				
			84	12/5				
			85	12/6				
			86	12/7	回生、石林観の門を叩く。	十四章1節	白銀③ P.86	どの場合も、基本的には出発日を1日経過日と数えて記述しているが、回生のように深夜に出発した場合の日数換算をどうすべきか微妙。石林観に深夜に到着したと考えれば、出発日=1日経過日と考えても支障はないか？
この頃、土遜が内宰に就任。	十五章1節	白銀③ P.158	87	12/8				罷免のほとぼりが冷める必要があるだろうと考え、罷免から一月後を想定した。
			88	12/9				
			89	12/10				
			90	12/11				
			91	12/12				
この頃、泰麒達は正頼の救出に向かう。潤達、泰麒や項梁、耶利と仲間になる。	十五章1節～5節	白銀③ P.174	92	12/13	李斎、建中を介して石林観の沐雨に呼び出される。白幟の人々とも友誼を結んだ後、飛燕に騎乗して夜に岨康着。そのまま岨康に宿泊。以後西崖に宿泊することを決定。 その晩はひどくふぶく。	十四章1節・2節	白銀③ P.83 同P.124 同P.127	白銀③P.124「馬でも一日かかる道のりが四半日もかからない」馬と騎獣(天馬)の速度差の目安になる。 白銀③P.159「だが、その日から土遜の傍迷惑な献身が始まった。日に三度は機嫌を伺いにやってくる。(後略)」とあるため、土遜の内宰就任から泰麒が正頼を探しに行く日までは数日の間があることが分かる。土遜と泰麒のやりとりの長さから5日程度が経過していると考えた。
阿選、黄袍館へ突然の出現。泰麒に叩頭を強要する。	十六章1節・2節	白銀③ P.217	93	12/14				
			94	12/15				
			95	12/16				
			96	12/17				
			97	12/18				
			98	12/19				
			99	12/20				
			100	12/21				
			101	12/22				
			102	12/23				
			103	12/24				
			104	12/25	沐雨から如翰への手紙、浮丘院に届く。	十四章3節	白銀③ P.137	
			105	12/26	喜溢が李斎達に一人の女性を引き合わせる。女性、阿選軍が函養山で何を行っていたかを語る。 李斎と静之、牙門観の詳悉と端直に出会う。詳悉と端直、葆葉に驍宗の行方を知る荒民に心当たりがないか聞くと約束。	十四章3節・4節	白銀③ P.127 同P.149	李斎が岨康に宿泊してから正確に何日後のことであるか不明。月の日数を合わせる必要もあり、少し間を空けた。
			106	12/27				
			107	12/28				
			108	12/29				
阿選、露台に行んで過去を振り返る。	十七章4節	白銀③ P.322	109	1/1	文州の親子、12月には控えていた供え物を流す。	十七章4節	白銀③ P.330	
			110	1/2				
この頃、阿選は朝議に出席。惠棟を瑞州の州宰に任じる。 巖趙、泰麒の大僕として働くようになる。	十六章6節・7節	白銀③ P.264 同P.273	111	1/3	年が明ける。 詳悉と端直、再び李斎を訪問。李斎・静之・去思は牙門観へ、建中・鄴都はその間に琳宇から西崖への引越し準備。	十六章4節	白銀③ P.239	そんな年末年始に活動的になるのか？とやや奇妙な感じがしないでもないが、言葉通りに捉えるのであればここで年を跨ぐ。
			112	1/4				
			113	1/5				
			114	1/6	李斎・静之・去思、白琅の牙門観へ到着。李斎達、赴葆葉と面会。夕刻には敦厚と引き合わされる。	十六章5節	白銀③ P.240	詳悉と端直が即日引き返すのは現実的ではないと考え、李斎訪問の翌日に琳宇を出発したと考えた。

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・酈都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
			115	1/7	李斎達、牙門親を出発。葆葉から騎獣を贈られる。 夕麗、李斎達と牙門親の連絡係として李斎達に同行。塙の場所を案内される。	十六章5節	白銀③ P.261	
			116	1/8				
			117	1/9	李斎・静之・去思、琳宇に到着。葆葉からの情報を酈都と建中に連絡、今後の方針を練る。建中、修行道を李斎達を通る為の許可を石林観へ求める。	十七章1節	白銀③ P.288	十七章冒頭が李斎の琳宇到着当日であると直接分かる箇所はないが、酈都・建中と合流してすぐに相談したと考えるのが自然だろう。
			118	1/10	李斎達、拠点西崖に移す。卓央山への修行道の案内役として梳道が同道することになる。	十七章1節	白銀③ P.288	白銀③P.289「乗騎を使って行けば卓央山までは三日の距離だという。二泊は完全な露営になるからその準備が要る」とあるが、何処から三日の距離なのか不明。琳宇を起点に三日の意味だとすると、二泊三日の旅程であるため、安福での一泊が野営ではないことと矛盾するので、修行道に入ってから（則ち安福の東側の巡礼路・修行道の分岐路にある廟から）三日で卓央山の意味と取った。
			119	1/11	李斎達、琳宇を出発。安福で一泊。	十七章1節	白銀③ P.290	
			120	1/12	安福発。李斎・静之・去思は修行道に入る。修行道に軍のやり方をした道路補修の痕跡を見付ける。 この日は溪流近くで野宿。	十七章1節	白銀③ P.294	
			121	1/13	李斎、松の根元に塚を見付ける。複数人がこの修行道を越えた事を察する。	十七章1節	白銀③ P.294	
			122	1/14	李斎達、卓央山へ到着。その後卓央山の麓の高卓へと進んだところ、道端で癸魯と再会。そのまま霜元とも再会する。 李斎達、話す中で驍宗が函養山に閉じ込められている可能性に思い至る。	十七章2節・3節	白銀③ P.300 同P.303 同P.307 同P.321	
			123	1/15	李斎・霜元達、高卓の宗教者達と会談。函養山の大捜索について相談する。	十八章1節	白銀③ P.339	李斎と霜元が高卓の人々と相談をしたのが、再会後何日後か正確な記述は存在しない。しかし内容の重要性から鑑みて、翌日か翌々日には相談する機会を持ったと考えた。
			124	1/16	李斎、高卓を出発。	十八章1節	P.341	李斎が高卓を出発した正確な日には分からないが、霜元を待たずということは会談の翌日と見るのが妥当か。修行道を引き返したとあるため、西崖までの旅程と安福までの旅程はほぼ同じと考える。
			125	1/17				
			126	1/18	李斎、西崖着。西崖にいた朽棧に函養山の捜索について報告し、許可を取り付ける。	十八章1節	P.343	
			127	1/19				
			128	1/20				
			129	1/21				
			130	1/22				
			131	1/23				
			132	1/24				
			133	1/25				
			134	1/26				
			135	1/27				
			136	1/28				
			137	1/29				
			138	1/30				
			139	2/1				
			140	2/2				
			141	2/3				
			142	2/4				
			143	2/5				
			144	2/6				
			145	2/7				
			146	2/8				

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・豊都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
この頃、士遜が泰麒の謀殺を計画。これを理由に士遜・張運、失脚。	十九章2節・5節	白銀④ 『戴史作書』 同P.47	147	2/9				士遜と張運の失脚の正確な日付が分からないため、『戴史作書』の記述に従い、大まかに2月と考える。また2月末には友尚が鴻基を発つ筈であるため、二人の失脚は白銀③の十八章での出来事よりも前の段階で起きていると思われる。同じ鴻基での出来事でも、友尚・恵棟パートと張運・士遜パートとで語りが分かれており、必ずしもそれら全てが時系列順に配されていないと考えた。
			148	2/10				
			149	2/11				
			150	2/12				
			151	2/13				
			152	2/14				
			153	2/15				
			154	2/16				
			155	2/17				
			156	2/18				
			157	2/19				
158	2/20							
159	2/21							
この頃、友尚は阿選に驍宗を迎えに行くよう指示される。	十八章3節	白銀③ P.356	160	2/22				白銀③P.359「部下を選抜し、一師を編成し、琳宇に到着するまでに約半月というところか」という記述と、白銀④P.144「雪の街道を進むこと半月、英章軍は文州琳宇に到着、その郊外に陣を構えた」という記述を併せて考えるに、鴻基を出発してから琳宇までが半月、部下の選抜や編成でもう数日という計算になると考えた。
			161	2/23				
この頃、恵棟は辞任の意志を泰麒に伝える。泰麒は慰留、驍宗が王であると明かす。	十八章4節	白銀③ P.364 同P.367	162	2/24				恵棟は友尚の文州行きを聞き、衝撃を受けて辞任を決意したと考えられるため、友尚への進軍指示から数日後であると考えた。
			163	2/25				
			164	2/26				
			165	2/27				
166	2/28							
この頃、友尚軍が鴻基を出発。	二十章2節	白銀④ P.73	167	2/29				
			168	3/1				
			169	3/2				
			170	3/3				
			171	3/4				
			172	3/5				
			173	3/6				
			174	3/7				
			175	3/8				
			176	3/9				
			177	3/10				
178	3/11							
179	3/12							
180	3/13							
			181	3/14	この頃、友尚軍琳宇に到着。	十九章6節	白銀④ P.48	正確に3月の何日かは不明。
鴻基に友尚の琳宇到着の報、届く。恵棟を文州侯に任ずることが決定する。	二十章2節	白銀④ P.62 同P.73 同P.75	182	3/15	友尚軍、街道に沿って函養山へ北上を開始。	二十章1節	白銀④ P.63	友尚の琳宇到着が午後なので、そこから青鳥を飛ばした場合、国官の上層部、例えば叔容や阿選に報告が届くのは翌日になるのではないかと予想した。
			183	3/16				
恵棟、文州侯任命の報せを受ける。	二十章2節	白銀④ P.76	183	3/16				
			184	3/17	友尚軍、岨康の間近に迫り、岨康を陥落させる。夕刻には土匪は岨康から後退、安福に逃げ込む。 夜には西崔の李斎達に、土匪と禁軍の戦闘の報が入る。霜元と李斎、大いに議論。建中、空正、清玄、博牛ら、独自に土匪を助けるべく出発。	二十章1節・3節	白銀④ P.68 同P.79	

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・豊都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
			185	3/18	友尚軍、安福へ移動、攻城戦。土匪、友尚軍からの攻撃に耐えて籠城。	二十章4節・5節	白銀④ P.91	
この頃、恵棟が鴻基を出発。			186	3/19	土匪の籠城2日目。烏衡、痺れを切らして赭甲と共に軍営を離脱、安福の西側の廬を襲う。建中ら、赫甲と交戦するも逃げられる。烏衡、一つ前の廬に戻ると驍宗に遭遇。離脱して軍営に逃げる。建中ら、その後驍宗を拘束。友尚、烏衡から驍宗に遭遇したと報告を受ける。友尚が派遣した二両、赭甲の虐殺に憤慨し士気を下げる。探索遅滞。夕刻、安福後略を中断して友尚が探索に加わるも、指揮系統混乱。朽棧、禁軍が西へ来たのを見て、足止めを思いつく。	二十章4節・5節	白銀④ P.93 同P.98 同P.105 同P.107 同P.110 同P.114	
			187	3/20	明け方近く、友尚軍の指揮系統回復。安福への退却がてら、朽棧らに攻撃。李斎ら援軍二千、間一髪のところ朽棧の救援に間に合う。その後癸魯らの援軍二千、弘宏ら空行師約二両、来る。	二十章5節・6節	白銀④ P.116 同P.121 同P.124 同P.126	
			188	3/21	李斎達、阿選軍の掃討、残党の捕縛。深夜、李斎達は捕虜を連れ函養山手前の崔峰の廃墟に帰着。西崔から来ていた霜元と合流、その後驍宗と再会。墨陽山から雁へ向かう計画が定まる。友尚、阿選への疑念から敵軍の人々をうらやむ。	二十章7節	白銀④ P.130 P.131 P.134 P.143	
			189	3/22	驍宗、潞溝へ向かう。李斎と霜元、崔峰にて友尚と会話。	二十章8節	白銀④ P.144	
			190	3/23	友尚とその麾下、自軍の兵卒らと一人ずつ話す。深夜、全員が霜元らに下ると表明。	二十章8節	白銀④ P.153	
			191	3/24	未明、驍宗一行は崔峰を出発。見送った霜元ら、崔峰から撤収、潞溝へ後退する。友尚と霜元、項梁が英章らに接触した可能性に思い至る。	二十章8節・二十一章2節	白銀④ P.160 同P.177 同P.186	
文州にて友尚軍が壊滅したとの報、鴻基に届く。烏衡、同時に驍宗脱出や土匪の実情を阿選に報告。文州に李斎がいる事、伝わる。阿選、追加の派兵を決定。玄管、李斎を生き延びさせたいと考える。	二十一章1節	白銀④ P.163 同P.176 同P.177	192	3/25	驍宗一行、鞅田を離れて最初の街で宿泊。	二十一章3節	白銀④ P.192	「文州から空を駆け戻ってきた」とは、雲海の上を移動した可能性もある。もし雲海の上を空行したのであれば翌日に鴻基着、雲海の下であれば徒歩半月程度の道程を空行したのだから、どんなに速くとも5日程度は見ろべきか。烏衡も同時に鴻基へ帰着しているところから、今回は雲海の下を通ったと考えた。また、霜元に鴻基から王師が動き出したという報告のあった日の前日を王師の先遣隊出発日と考えた場合、阿選の進軍指示はその更に前日である可能性が高く、この日に友尚軍壊滅の報が鴻基に伝わったとみた。
王師の先遣隊、鴻基を出発し始める。			193	3/26	驍宗一行、街道を離れて山野を進む。	二十一章3節		白銀④P.206「文州師一軍または二軍、王師は一軍だ」とあり、白銀①P.143「禁軍一軍の威容をもって文州の民に、もはや土匪を恐れるには及ばないことを示す」とあることから、英章の文州進軍と今回の王師の文州進軍は規模が近いと考えられる。白銀①P.144「不眠不休で手はずを整え、翌日には先遣の一師が鴻基を離れた。以降、一師ごとに順次街道を北上して文州へと向かう。しんがりの項梁軍が英章と共に鴻基を発ったのは、三日後のことだった」とあることから、今回の進軍も白銀④P.176の阿選の進軍命令の翌日に先遣隊が鴻基を出発、その3日後に最後尾が鴻基を出発したと考えたが、これだと霜元らから見た王師の文州到達までの日数が早すぎる。



全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・鄧都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
			194	3/27	驍宗一行、白琅に近づく。街道に戻る。 夕麗、白琅を出発し霜元らへ敦厚からの報告を伝えるに行く。	二十一章 3節	白銀④ P.192	李斎達が詳悉らに伴われて白琅に行った際は出発日含めて三日掛かっていた。驍宗らも大々的には空行していない為、ほぼ同日数掛かったと考えた。「街道を逃れて間道に入ったのは五日目」という記述とも合う。
			195	3/28	驍宗一行、街道を再び逸れ、間道へ。夕方に南雪道に入る。	二十一章 3節	白銀④ P.192	
			196	3/29	州師が動き始めていると、敦厚から霜元らに報告。	二十一章 4節	白銀④ P.202	
			197	3/30	驍宗一行、南雪道を逃れる。馬州へ向かう山深い街道を進む。 鴻基から王師が北へ向かっているとの連絡あり。友尚・霜元、烏衡は鴻基に戻っていない可能性が高く、阿選は驍宗の居所を知らないとする。 静之、朽棧ら土匪に逃げるよう忠告するが、却って墨幟に加わると言われる。	二十一章 3節・4節	白銀④ P.193 同P.203 同P.210	「三日を経て」は、南雪道に入った日を一日とカウントして三日目に南雪道を逃れた、の意味であると考えた。
王師の最後尾、鴻基を出る。			198	4/1	定撰の里、土匪の焼き討ちに遭う。李斎と驍宗、消火と救出を手伝うが、途中で里を後にする。彦衛、李斎ら旅の一行の人数が途中で一人減ったことに気付く。	二十一章 3節	白銀④ P.200	正確なことは分からないが、定撰と彦衛の里の名が南牆か。
			199	4/2				
阿選、驍宗が南牆を通ったと知る。夜、帰泉の魂を抜く。	二十一章5節	白銀④ P.211 白銀④ P.217	200	4/3				阿選が驍宗の足取りを掴んだのは驍宗が南牆を越えた後だが、把握までに要した日数は不明。帰泉らの移動や捜索の日数、県城から白圭宮まで話が伝わる時間などを考え、このような日取りを考えたと。
阿選、烏衡を殺害。帰泉に驍宗探索を命じる。帰泉ら空行師、鴻基を出発。	二十一章5節	白銀④ P.217	201	4/4				帰泉らが南牆周辺へと到着するまでの日数から考えるに、馬州州都の威稜か、文州州都の白琅か、どちらかの凌雲山までは雲海の上を行っただと考えられる。
泰麒、阿選に詰め寄るも目論見を暴かれる。嘉馨、捕縛される。	二十一章6節	白銀④ P.222 同P.231	202	4/5	琳宇に王師が到着しはじめるが、動く気配なし	二十二章 1節	白銀④ P.239	
			203	4/6	霜元ら、琳宇の王師が動かないことを訝しむ。玄管から李斎宛ての書簡、霜元に届く。霜元、浩歌の率いる15騎を驍宗らの許へ派遣。 驍宗一行、馬州との州境近くに迫るも空行師に襲撃される。一行、瓦解。鄧都死亡、驍宗捕縛。去思、羅睺に騎乗して江州へと逃走。 浩歌、驍宗を捕縛した空行師を追跡。李斎と泓宏、潞溝へ戻る。 夜、夕麗が潞溝を訪問。文州師が動いたことを報告。その直後に李斎、潞溝に戻る。	二十二章 1節～3節	白銀④ P.244 同P.239 同P.240 同P.242 同P.272	白銀④P.244の記述は入り組んでいて分かりにくい。南牆が彦衛らの里の名だとして離れた次の日が1日目だった場合の5日目がこの日。離れた日当日から数えると、帰泉らが驍宗を捕縛する日までの日数が合わない。 また、潞溝から馬州との州境付近までの移動が、騎獣でどの程度の時間を要するかも不明。もしかすると前日に浩歌らが派遣されていたかもしれない（その場合、李斎の潞溝帰着がその日の内であった事と矛盾すると思った為、同じ日に全てが動いたと考えた）
			204	4/7	恵棟、如雪を通過。	二十二章 3節	白銀④ P.279	英章や友尚など、鴻基から文州までの大規模な進軍が約半月。それに比べて除雪や移動時間の点から、恵棟の方が数日遅れると考えた。想定している出発日から18日後の到着と仮定した。
			205	4/8	恵棟、文州城に到着。敦厚、落胆。	二十二章 3節		
			206	4/9				
			207	4/10				
			208	4/11				
			209	4/12				
			210	4/13				
			211	4/14				

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・豊都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
			212	4/15	文州師、白琅着。	二十二章 3節・4節	白銀④ P.278	文馬両州の境で驍宗を捕縛し、それを州師が護衛しながら白琅へと戻るまでに10日～半月程度かかる。次に白琅から琳宇方面へ向かう際、宧汲までで7・8日、嘉橋までで10日程度かかる。よって州師のが州境から宧汲まで来るには、17～20数日程度かかる計算。 一方霜元らは最初の10日程で西崖において兵を糾合、すなわち人員の集合を待ち、残りの10日程で宧汲へと向かうというスケジュールであると思われる。白銀④P.278「こちらも猶予は十日」の猶予とは、兵力の糾合に使える猶予の意味か。
			213	4/16	文州師、白琅を出発。	二十二章 3節・4節		
			215	4/18				
			216	4/19				
			217	4/20				
			218	4/21				
			219	4/22				
			220	4/23				
			221	4/24				
			222	4/25	文州師、宧汲着。	二十二章 4節		
			223	4/26	文州師、宧汲を出発。	二十二章 4節		
			224	4/27	宧汲東にて、墨幟軍と文州師が衝突。	二十二章 4節	白銀④ P.280 同P.281	
			225	4/28	州師、墨幟の攻撃を受けつつも嘉橋付近で王師と合流。 墨幟の主立った面々、西崖へ一旦撤退。朽棧、死亡。飛燕、李斎を庇って死亡。	二十二章 4節	白銀④ P.283	
			226	4/29	墨幟、最後の攻勢に出る。 文州師、白琅の牙門観を急襲。それとは別に文州師、西崖に迫る。西崖の戦えない者達、喜溢に伴われ潞溝へ避難。西崖、この日から翌日にかけて激しく攻撃される。 敦厚、掃討戦の混乱に乗じ白琅から逃亡。	二十二章 5節	白銀④ P.303 同P.304	李斎や霜元らが西崖を出てから潰走まで何日程度あったか不明だが、琳宇から瑞州との州境まで、王師が一日では踏破できないと考えた為、2日が経過したと考えた。西崖を攻撃した文州師も、恐らく白琅から攻め上ってきており、こちらも西崖を一日で急襲、壊滅、撤退までしたとは考えにくい。 敦厚の白琅離脱がいつ頃なのかは正確には分からないが、掃討戦の混乱に乗じたとあり、また牙門観が攻撃に遭う段階では脱出していないと危険であろうと考え、この日であると考えた。
			227	4/30	墨幟、文州と瑞州との州境へ接近するが、力及ばず潰走。驍宗を護衛した王師、瑞州防衛線の向こうへ消える。 光祐、白琅まで二日の距離に来たところで墨幟の潰走を知る。馬州への逃亡を決断。 夜、馬州師に墨幟潰走の報せが届く。浩歌、それを察知して馬州への逃亡を決行。	二十二章 5節・6節	白銀④ P.292 同P.292 同P.294 同P.295 同P.296	瑞州防衛線は文州と瑞州の州境近くを指すか。P.303の記述からそれに近いものであると想像できる。 馬州師に青鳥が届いたのは、距離から言っても墨幟が潰走した当日中と考え、浩歌の馬州行きもこの日の夜であると考えた。
この頃、東架の里家の食料、尽きかける。園糸、淵澄と会話。	二十二章5節	白銀④ P.298	228	5/1	浩歌、未明に英章・臥信軍と合流。臥信ら、兵力を江州へとふりむける。	二十二章 5節・二十四章4節	同P.397	園糸が淵澄と会話したのがいつ頃なのか正確には分からないが、物語の順序からこの辺りかと想像した。
この頃、阿選は六朝議の席で驍宗の弾劾について話す。案作、冢宰に任じられる。 泰麒の謹慎、形の上でのみ解ける。嘉馨や州六官長の処刑が泰麒に告げられる。 驍宗、この日までは王師内にいたと確認が取れる。	二十三章2節	白銀④ P.307 同P.313 同 白銀④ P.319	229	5/2				

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算日数	月	李斎・去思・豊都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
淵澄、死去。 泰麒、六朝議に再び出席するようになる。 この辺りで、驍宗は托飛山へ護送される。	二十二章5節	白銀④ P.299	230	5/3				
			231	5/4	この頃、敦厚が西崔に到着。墨幟の生き残りに逃亡を勧める。	二十三章1節	白銀④ P.304 同P.305	白琅から西崔までの道程がどの程度の日数が不明だが、馬に乗って移動した場合に白琅から琳宇までが8日の旅程であるため、それより少し短い6日程度と想像。山道を進むため、もしかすると琳宇までの旅程とさほど変わらない可能性もある。
			232	5/5	この頃、英章・臥信の軍が去思と羅睺を保護。去思から事情を聞き、雁に使者を派遣。	二十四章4節	白銀④ P.399	去思は発見当初意識不明だったのだから、使者を派遣したのはもう少し後の事だった筈だが、そもそも去思を保護した時点が分からないため、同日にまとめた。英章・臥信らが江州へと軍勢を振り向けてから数日後と思われる。
			233	5/6				
この頃、王師が鴻基に帰着。			234	5/7	この頃、玄管から李斎の許へ青鳥が来る。李斎ら、約一か月後に驍宗が処刑されると知る。	二十三章3節	白銀④ P.327	瑞州州境から鴻基までの所要日数は具体的には不明。碩杖から鴻基と琳宇から鴻基が距離的にはかなり近く、騎獣に乗った泰麒と項梁が、降雪前の時季に4日で鴻基に到着していた。徒歩の場合は仮に、その倍を計上して8日と考えた。
この頃、朝議で驍宗断罪の具体的な手法が定まる。 泰麒、潤達を東架へと逃がす。	二十三章2節	白銀④ P.321 同P.325	235	5/8				
			236	5/9				
			237	5/10				
			238	5/11				
この頃、潤達は東架に到着？	二十五章3節	白銀④ P.426	239	5/12				潤達が東架に到着した正確な日付は不明だが、「探し出し」とあるため、到着まで数日を要したと考えた。
この頃、潤達はとらを墨陽山の隧道に放つ。	二十五章3節	白銀④ P.426	240	5/13				
			241	5/14				
			242	5/15	この頃、李斎は文州を出立。	二十四章1節	白銀④ P.361	鴻基到着より二十余日前に文州を出発したと想定。西崔から移動していた可能性があるため、大まかに文州と考えた。
			243	5/16				
			244	5/17				
			245	5/18				
			246	5/19				
			247	5/20				
			248	5/21				
			249	5/22				
			250	5/23				
			251	5/24				
			252	5/25				
この頃、臥信が江州城を陥落させる。 江州の高官と主立った兵卒を建物に籠め置いた。	二十五章1節	白銀④ P.413	253	5/26				臥信が江州を陥落させたのがいつ頃なのか曖昧だが、鴻基から江州へと後退する軍勢が漕溝へと到着するのに十日を要しているため、同日数を想定した。戦闘がない分、もう少しこちらの日数は短い可能性もある。
臥信、鴻基へ進軍。入れ替わるようにして光祐、江州城に入城。江州春官長、他の官吏を説得し墨幟に恭順を示す。	二十五章1節	白銀④ P.413	254	5/27				「一日をおいて入れ替わるように」の意味が取りづらいが、江州城陥落の翌日に臥信は鴻基へ、それと同日に光祐が江州城に入城、の意味であると読んだ。また、英章が光祐について白銀④P.416「光祐はよく働いた。碩杖からここまで、兵卒を率いて驚異的な速さで駆け付けたんだ」と述べており、碩杖から江州までの高速移動は、この時のことであった可能性が高い。
			255	5/28				
			256	5/29				
			257	6/1				
			258	6/2				
			259	6/3				
			260	6/4				
			261	6/5				

全員、もしくは泰麒・項梁、鴻基の人々	参照章・節	参照箇所	通算 日数	月	李斎・去思・豊都、文州の人々	参照章・節	参照箇所	備考
耶利、鴻基の検問の様子を見に行く。 泰麒に翌日のことを約束する。 李斎、鴻基に到着。皋門に近い道観で 霜元、静之らと合流する。 驍宗、托飛山から白圭宮へと護送され る。	二十三章5 節・二十四 章1節・2節	白銀④ P.350 同P.355 同P.360 同P.361 同P.374	262	6/6				
驍宗の処刑日。正午に弾劾が開始。泰 麒や李斎ら、驍宗を奪還。英章・臥 信、鴻基へ進軍し奪還を補佐。 墨織、その日の内に鴻基の南の県城ま で後退。	二十四章	白銀④ P.327	263	6/7				正確な日にちが分からないため、李斎らが玄管からの青鳥 を読んでからちょうど30日後に設定した。
			264	6/8				
			265	6/9				
驍宗ら、空行にて漕溝城へ到着。李 斎、延麒と尚隆に再会。驍宗、尚隆に 助力を乞う。	二十四章4 節	白銀④ P.404	266	6/10				
李斎、泰麒を連れて蓬山へ出立。	二十五章2 節節	白銀④ P.422	267	6/11				
漕溝城に墨織・禁軍・瑞州師・江州師 の旗、王旗・麒麟旗が掲げられる。	二十四章4 節	白銀④ P.404	268	6/12				
			269	6/13				
			270	6/14				
			271	6/15				
花影、漕溝に到着。李斎、これを出迎 える。	二十五章2 節	白銀④ P.416	272	6/16				
王師と戦いながら後退して来た兵卒、 江州城に到着。最後尾の友尚も到着。 品堅、李斎と言葉を交わす。李斎、光 祐や彼の率いる昔からの兵達と再会す る。	二十五章1 節	白銀④ P.409	273	6/17				



# 戴国カレンダー

## 本表

### 別表1 『魔性の子』時系列

### 別表2 『白銀の墟 玄の月』時系列

作成者: ほしなみ (<http://seisatoka.lomo.jp>)

表デザイン・編集協力: しぐま

作成日: 2021年9月11日

表紙・裏表紙はてんぱるさまの素材をお借りしました。

てんぱるさま pixiv: <https://www.pixiv.net/users/2513282>

この本は個人的に作られた非公式ファンブックです。原作者さまや出版社さまとは一切関係ございません。